

歌や文学にも広く登場する霧の都・釧路のシンボル「幣舞橋」

春の夜霧にかすむ幻想的なたたずまい、夏雲に映える姿、橋の上からみる落日の美しさ、これが「幣舞橋」である。

橋詰めのおベリスク風の親柱、ハマナスの花を抽象化したデザインの高欄、橋上のブロンズ製の彫像この橋は釧路の風土を如実に表している橋である。そして豊かな詩情が漂う橋として歌にうたわれ、文学にも数多く登場している。



道路雑学研究者

三浦 宏

1987年北海道開発局を退き、現在(社)北海道開発技術センター 常任参与
著書:「北海道の峠物語」等 多数

ろ ぬさ まい はし	齋 新岳作
釧路幣舞橋	先賢苦節 泛清漣
ごたびかきょうし 五度架橋	せんげんのくせつ せうれんにうかぶ 先賢苦節 泛清漣
さいかえんむ 彩霞煙霧	ちやうぞうのよんひめ あいえいじあざやかなり 彫像四姫 相映鮮

この詩の大意は「初代の木製橋が架けられた明治22年から、架け替えの現幣舞橋は五代目で、昭和51年完成、初代から百年を経たのである。機械力に乏しい当時は、結氷や増水などで苦勞した姿が連に残る如く、その思いは尽きない。夕焼けや霧に包まれた幣舞橋は、北海道の三大名橋として親しまれ、市の動脈としても重要である。四季を象徴する乙女の像は、わが国では珍しい橋上彫刻で、日本を代表する彫刻家

四人の傑作であり、霧の街のシンボルとして、四つの裸像は互いに調和しその姿は誠に鮮やかである」(『北海道の漢詩』)。

霧の幣舞橋というのは、地元釧路はもとより、観光客にも親しまれている釧路川に架かる新しい橋が昭和51年11月26日に、五代目幣舞橋として生まれ変り現代風の中に、古い伝統美を盛り込んだ新橋の誕生である。橋長は124.0mで、3径間連続鋼床版箱桁のもので、現代の橋梁技術の粋を集め

た橋である。

桁の側面形状は、放物線を採用した旧橋の持つ重厚な落ち着きと、ヨーロッパスタイルのイメージを温存することを考え、全体的にスレンダーな感じとしたものであった。

昭和52年5月3日、道東の風土を高らかにうたいあげた釧路の新しいシンボル「道東の四季」のブロンズ像の除幕式が行われた。当初は「裸像が故に物議を醸した」ものであった。

この日釧路は前夜から朝方にかけて雪が降った。五段雷の花火を合図に除幕式が行われた。

そして四体の像にそれぞれ製作者が立会い、消防本部音楽隊のファンファーレが流れる中、春夏秋冬の順で次々と像を覆っていた幕が下ろされた。名橋の誉れ高き「幣舞橋」に、さらに、芸術的な価値が付加されたものであった。

この橋の建設に携わった倉橋元北海道開発局長は「一つの橋が住民の方々にこれほど深い愛情が注がれた例があったでしょうか。私も新橋の架替えにあたりましては、歴史的、風土的な背景に思いをいたし、以前にもまして立派な橋にすることを念頭に置きました。このため旧橋の風格とイメージを残し、かつ、新しい美しさを求めて国の事業としての範囲で最大限の努力をいたしました。さらに、住民の方々の橋に注がれた愛情がここに橋上の彫像の完成となって実を結びました」と、祝辞を述べている。わが国で初めて橋上に彫像が飾られた橋の誕生であった。

西洋では古代から住民の心をいやすために、橋の上に



芸術的な価値を付加した「四季の像」—釧路市観光パンフより—



霧の街・釧路のシンボル「四季の像」

彫刻を載せる都市造りが行われてきた。わが国ではこのような思想が根付いていなかった。しかし今、ここに実現したのである。この幣舞橋のように、公共の橋でありながら提案から資金まで、市民運動だけによって、芸術性の高い彫像が取り付けられた橋は、わが国でも初めてのものであった。それだけに市民にとって自慢の橋となっているものであり、北国に生きる凛とした強さを秘めた橋である。設置の事業費は総額 4,500 万円であつて、全てが市民の浄財で賄われたものであった。

この釧路のシンボル幣舞橋は、高さ 6.8 m の親柱を持ち、道内では珍しい風格と、釧路港を間近に、夏は朝霧、夜霧にぬれ秋・冬は夕日に映える姿が、この釧路を訪れる人たちにロマンチズムをかきたたせてきた。そしてさらに、道東の四季をテーマにした一流彫刻家が製作した四基のブロンズ像がこれを飾っている。

新しい幣舞橋を祝う

おお橋よ 朝の光に輝く橋よ
澄みわたる空 遙かに阿寒の山脈
港には大漁に旗ひるがえり
潮風香る 新しい世紀に生きる幣舞橋
喜び祝う声を 未来にかける橋
これぞわがふるさとの橋

(歌詞の一部) 作詞 柏村静子 作曲 星 壽夫

地元釧路市民はもとより、道内外の観光客にも親しまれている「新幣舞橋」が誕生した。

この日、早朝から雪模様となり、新しい橋も雪化粧となった。橋の両端には「祝五代目幣舞橋完成」の横断幕が張られ、午前 10 時ころから約 3,000 人の市民がこの橋の袖に集まってきた。

午前 11 時から竣工祝賀会発起人会主催による修祓式が行われた。神主の祝詞の後、関係者が玉串を神前に捧げ、倉橋北海道開発局長・山口釧路市長ら 7 人の手によってテープカットがされた。

消防音楽隊 22 人が奏でるファンファーレによって約



第五代目「幣舞橋」の誕生—提供：釧路開発建設部—

400 羽の鳩が冬空に舞い上がった。続いて渡橋式が行われ、そして渡り初めの儀式となった。新海龍勇一家ら三代の夫婦 5 組と、一般参加者約 500 人が喜びの渡り初めをした。

続いて地元ウタリ協会釧路支部と釧路アイヌリムセ保存会の 15 人により、男性は民族衣装に弓と刀を持ちお払いしながら進む。後列の女性たちは老婆たちの姿を再現し、杖をついてコンニカニルイカ(金の橋)、ホウルイカ(渡る)、ノシロカニルイカ(銀の橋)ホウルイカの歌詞に合わせて、古式にのっとったアイヌの民族舞踊により渡り初めの儀式があり、盛大に五代目のスタートを祝った。

地元の青年たちは、揃いの半纏で木遣を歌いながら渡って、ムードを盛り上げていた。

その後は一般市民をはじめ、近隣町村からも参加した郷土芸能によって完成が祝われた。

また、商工会館では祝賀会が開催され、この日釧路は一日中「幣舞橋」一色に彩られた。第五代目「幣舞橋」は、かくして「釧路の繁栄にふさわしい橋」として、昭和 51 年 11 月 26 日に誕生となった。

そして、この「合唱曲・新しい幣舞橋を祝う」の曲が市民会館で、江南・星園・北陽・湖陵の 4 高校合同合唱により、新橋の誕生を声高らかに歌い上げられたのである。

釧路の夜

霧は降る降る今日もまた
一人歩きのヌサマイ橋よ
船の汽笛も泣いている
女心も知らないで
貴方がにくい 貴方がにくい

作詞・作曲 宇佐英雄 歌 美川憲一

釧路市北大通 1 丁目幣舞橋交番の後ろに、ぬさまい河畔公園がある。ここにこの四つの像「道東四季の像」の建立由来を伝える碑が植え込みの中にある。

この広場の中ほどに総高 210 の黒御影石の台座に、艶消しされたステンレス製の「波」をイメージして三角形となった主柱の「釧路の夜」碑がある。

この碑の前に立つと、内部に組み込まれているセンサーによって、美川憲一の大ヒット曲「釧路の夜」が流れてくる昭和 42 年に釧路出身である宇佐英雄の作詞・作曲によるものである。

美川は「柳ヶ瀬ブルース」で有名であったが、それ以来しばらくヒット曲がなかった。その後この霧と幣舞橋と釧路川を歌ったこの曲で大ヒットを飛ばした。そして昭和 48 年の紅白歌合戦に初出場した。このことで

彼は釧路を恩人とも思っていたのであった。

平成5年1月の釧路沖地震で、釧路市は大きな被害を被った。このことに心を痛めていた美川は、全国でチャリティーコンサートを開き集まった募金 300 万円と、それに自分の見舞金 100 万円を加えて、釧路でのコンサート会場で市長に手渡した。

そして平成5年9月に、美川憲一の寄付、それに一般及び商店の寄付、市の助成などにより 650 万円の費用で、この「碑」が建立されたものであった。

釧路のシンボルといえば「霧幣舞橋釧路川」である。その中で「幣舞橋」はこの美川の歌によって全国に広く知れ渡ったのであった。

この「釧路の夜」の外にも「涙いろした 夜霧の街に咲いているだろ 楡の花 忘れましょか ヌサマイ橋で 好きで 好きで 別れた あゝ あの人を」という「霧のヌサマイ橋」というのもあり、この外にも「釧路の街に霧が降る」「女ごころの釧路川」「釧路みれん」「夜霧の釧路」「ヌサマイ橋」と、この幣舞橋を詠んだ歌謡曲は多い。

一つの橋でこれほど多くの歌謡曲があるのも珍しいとされる。

都鳥水面かすめて飛びかよふ

夕日さやけきぬさまいの橋 湯川秀樹

幣舞の橋のほとりに夕げはむ

窓近く飛ぶ都鳥かな 同

幣舞橋ふたての街を接ぐところ

渾濁の水海へまかなふ 中山 勝

幣舞の橋を見たさに夜の街

行けば濃霧が海よりこむる 橋本裕子

磯の香の漂ふあしたの釧路川

しばし憩はむ幣舞橋に 宮崎純子

杳き日の恋みのらせし橋替わり

裸婦像濡れ立つ子ら巣立ちいま 工藤ミサ

これら幣舞橋を詠じた俳句・短歌の数は数えきれない位、多く残されている。橋梁の歴史に詳しい佐々木光朗の調査では、橋とその橋上の彫像等を含めて俳句が 296 首、短歌が 196 首の多くに上っている。うち本橋のものが 151 首、彫像が 341 首である。

文学にも数多く登場する。古くは明治 41 年 (1908) に釧路新聞に招かれた 22 歳の石川啄木は、二重マントにかすりの着物姿で初代の幣舞橋を渡った。そして「傾きかけしあやふさに 柱ゆがみて欄よれて 行き来の人等かく思う 老いて醜く横たわる 三月とぞ

せる川氷 悲しきさだめ自ずから とけばやがてかの橋の 渡れば嘆くきしきしと 崩れ落つべき時来んと 彼の幅狭き長き橋」と詠む。やがて9年の務めを終えて、明治 42 年に二代目幣舞橋となる。

徳富蘆花の「みゝずのたわごと」に「夕汐白く漫々たる釧路川に架した長い長い幣舞橋を渡り輪島屋と云う宿に往つた……幣舞橋には蟻のやうに人が渡っている……予はなんとなくブタベストに遊びたる往時を想起した。ガスやもやのためになんとなく鈍色の雰囲気は免れぬがその風光には佳趣がある」と、明治 43 年 (1910) 9 月に来釧した時のことを書いている。明治から大正にかけて紀行文を書いている河合裸石の「蝦夷地は歌ふ」や、早川三代治の「処女地」にも書かれているが、原田康子の「挽歌」が何といても有名であろう。昭和 31 年にベストセラーとなり二度も映画化され、一躍釧路・幣舞橋の名が高まった。武田泰淳の「森と湖のまつり」や渡辺喜恵子の「原生林」金沢恒司の「おんあぼきや」などにも登場している。

なお、初めて架けられた橋は明治 22 年 (1889) に、民間の手によって有料橋「愛北橋」が誕生、初代幣舞橋が明治 33 年に、二代目が同 42 年に、三代目が大正 4 年 (1915) に、そして北海道の三大名橋の一つといわれた先代の四代目昭和 3 年 (1928) の幣舞橋となったものである。したがって現在の幣舞橋は六代目の橋となるが、幣舞橋としては五代目となるものである。

釧路のシンボルである「幣舞橋」は、今日も霧に映えた橋として、その姿を釧路川に映している。



オベリスク風の荘重な飾り塔「親柱」

参考文献

尾角鳳師編「北海道の漢詩」藻山吟社、平成 4 年 5 月
「新釧路市史」釧路市、昭和 49 年 9 月

三浦 宏「霧の幣舞橋」道路、1981 年 3 月号

松村 宏著「日本百名橋」鹿島出版会、1998 年 8 月

釧路幣舞橋彫像設置市民の会編「幣舞橋と道東の四季像」、昭和 53 年 11 月

「釧路新書・釧路碑文手帳」釧路市、平成 10 年 3 月

三浦 宏編著「語り継ぐ北海道の橋百話 (四) 道東編」未発表